

日本ってやはり「鎖国する国」ですか

山本卓朗

未来構想 PF 会長

インバウンドが急激に増加して訪日客は年 3000 万人を超え、私たちの周辺がまことに賑やかになってきた。祇園の舞妓パパラッチなど悩ましいニュースも多いけれど、長く続いた経済の停滞ですっかりさびれてきた観光地など訪日客需要でほっとしている地域も多い。海外へ出かける日本人数は、2000 万人位で訪日外国人数と開きがあるが、若者の語学力が格段に上昇していることも実感できる・・・と前向きに書き出してみたが、いえいえどうして、急速に進む国際化の障害となっている深刻な事態がどんどん顕在化しているのではないか。

●官民挙げて取り組む「インフラ輸出戦略」に異論はないが、“我が国の強みのある技術・ノーハウを最大限に活かして”、というのは簡単な話ではない。今日の日本の技術には、明治の始めから先進国に追いつけ追い越せの努力をしてきた 150 年の積み上げがある。特に厳しい環境と巨大地震への対応、そして日本人向けの過剰なサービスを満たすために、ガラパゴス化といわれる特異なスペックを持つに至った。発展途上国は固定電話時代をパスして、いきなり有線網のない携帯時代に突入し、旧式な鉄道を近代化する時代をパスして、いきなり新幹線を導入し時速 300 キロ運転を始めてしまう。“世界に冠たる日本の新幹線”を標榜しても高度なスペックを備えた重たいシステムは、コスト高の故に競争力を無くしている。インド新幹線建設に派遣されている仲間が苦勞する所以でもある。高度な基準は災害国日本では必須としても、諸外国の実情に適應出来るフレキシブルな輸出基準をダブルスタンダードとして持つべきではないか。

●豊富な国内需要で潤ってきた日本の建設業は、独特の育ちから国際社会で大変苦勞している。その間の事情は“絶滅貴種”日本建設産業（草柳俊二氏訳 栄光社）を読んで頂ければよく判る。談合訣別でコンプライアンスのアキレス腱を克服した日本の建設業の次なる課題は、国際社会での生き残りをかけた戦略にある。

●民主党政権の「コンクリートから人へ」以来、社会資本整備の低調が続き、着実に整備を進める欧米諸国や猛追するアジアの発展国に比べ整備の遅れが顕著になってきた。社会インフラの遅れは、輸出コストに響くので国際競争での敗北に繋がる。本プラットフォーム通信 11 月号（第 72 号）の森地茂氏「社会資本整備と財源」を読んで頂きたい。

未来構想プラットフォームの活動も 10 年目に入ります。本通信も第 73 号まで来ましたが、第 2 号から分野を問わず目にとまった「国際比較データ」を掲載してきました（第 2 号“国際比較”を身につけよう：山本卓朗）。“日本の常識は世界の非常識”とならないよう客観的に世界の動向を国際比較でみてみようという活動です。千葉県台風でにわかに関心が高まった電柱の地下化（無柱化）は、90%に近い欧米に比べて 3 割程度、在宅勤務などのテレワークも 60%を超える欧米に比べて 20%程度。こういうデータをみながらこれからの社会について色々議論出来たらと思います。

WS 五方面作戦－5（五方面作戦の評価）

巨大な設備投資を伴った五方面作戦は、それがちょうど国鉄の財政赤字の問題が顕著になってきた時期と重なることもあって、事業実施当時から国鉄の分割民営化後 JR の経営が安定する 1990 年代まで、財務評価・経済評価の両側面ともに大きな関心をよんできた。まず定性的な評価としては 1972 年に、国鉄旅客局が五方面作戦が短期的にもたらす財務的負担を「現在の赤字は将来の黒字を得るためのコスト」とし、一方、建設局は「需要追従にとどまり都市の開発をリードするという積極性に欠けていた」と専門紙に報告している。

定量的な評価としては蓼沼が 1998 年に五方面作戦の経済的内部収益率を 18.3% と顕著に高い数値を算出し、推計された利用者便益の 53% が時間短縮、47% が混雑緩和としている。これは交通利便性の違いによって人口配置に差異が生じると仮定して事後評価したものである。つまり、社会的な効果としては、五方面作戦は十分に効果的なプロジェクトであったということになる。

東京通勤『五方面作戦』



一方、定量的な財務評価については、事業の完成直後の 1982 年に国鉄首都圏本部が試算した財務的内部収益率が路線によって 6%～10% と発表されている。これは事業を実施しない場合、一定の混雑率以上に相当する旅客を逸失するだろうという前提で機会利益を算出したものである。前述の蓼沼は財務的内部収益率を 10.8% と試算している。算出の前提に課題がないでもないが決して低い数字とはいえない。

五方面作戦が国鉄経営にどの程度負担になったのか、年間設備投資額の減価償却費に対する比率を算出し相対的に眺めてみる。国鉄の総設備投資に対して五方面作戦が約 14% を占めていたことを考慮すると、五方面作戦当時の国鉄の年間設備投資総額は減価償却費の 134% に相当する。では、より経営に対して厳しい姿勢を持つとされる民鉄ではどうなのか、1960 年代後半から 2000 年前後にかけて大規模な複々線化を行った東武鉄道および 2019 年に複々線化事業が完了した小田急電鉄と比較する。東武のケースでは 75%～100%、小田急のケースでは 100%～150% で、五方面作戦はこれらと似たような数値となっている。巨大な事業ではあるものの、民鉄の事業に比べて国鉄にとって設備投資がとりわけ大きな財務的負担となっていたとはみなし難いようだ。ちなみに、2017 年度の JR 東日本の設備投資額は、同年の減価償却費の約 150% 程度となっている。

【参考文献】

- 1) 山本卓朗（国鉄建設局停車場二課）：国鉄の都市交通 60 年ビジョン、JREA1972
- 2) 近藤太郎（国鉄首都圏本部投資管理室）：通勤五方面作戦の総決算について、運輸と経済 1983
- 3) 蓼沼慶正：国鉄の通勤輸送力増強投資の事後評価、運輸政策研究 Vol.1 No.2 1998

土木学会主催の土木コレクションに「ボランティアガイド」参加

土木学会は、「土木コレクション（通称ドボコレ）」やその他を通じて、市民との双方向のコミュニケーションを強化していきたいと考えており、今年度は、11月14～17、新宿駅西口広場で、**東京オリンピックをテーマに「ドボコレ」を開催**。4日間で約35,000人の来場者があり、長時間滞在される方や「土木カフェ」にも多数の参加をいただき好評であった。

会場のガイド役として、東京都建設局OB団体（防災ボランティア）、首都高OB会に加えて、今回、未来構想PFも有志を募ってボランティア参加した。質問は殆どなかったが、参加者からは、いい体験が出来た、との感想を頂いた。

（事務局 土井）



未来構想 PF 10 年目を迎えて 感想をお聞きました

PF 通信の誌面に度々登場

未来構想 PF の発足 10 周年目おめでとうございます。自分としては平成 25 年の秋に第 3 回施工計画部門ワークショップでファシリテーターを務めさせていただき、今後リニア中央新幹線の停車駅となる橋本駅の改良計画をメンバーと一緒に楽しく議論しました。

その後も、未来構想プラットフォーム通信にて VOICE（ドイツの話が中心でしたが）、ニュース（「最近の気になる記事」を厳選して選んでいただいています）、今月の写真コーナー（拙い写真で恐縮です）といった場面で誌面に度々登場させていただいております。今後も皆様にとって有意義な情報発信ができるように努めてまいります。

（JR 東京工事事務所 岩井有人）

9/26 大丸有まちづくり散策に参加して

9 月 26 日に大丸有の街づくり散策に参加いたしました。三菱地所の白根様にご案内いただき、久しぶりにじっくり端から端まで大丸有エリアを、地上だけでなく地下も含めて歩きました。拠点づくりとネットワークづくりとともに改めて街づくりはその後の街の運営が大事だと感じた次第です。

同様のことは先だって参加した、都市再開発法制定 50 周年の記念シンポジウムの中でもテーマとして挙げられていて、不動産投資の視点よりも、地域の暮らし再生事業であるとパネラーの方からもあり、エリアマネジメントの重要性が語られていて、改めて先駆けとなった大丸有エリアの街づくりに対する長期的な計画と実践に思いを至らせた次第です。

（JR 東日本建築設計 進藤隆之）

WS 研修に参加して

二年ほど前に、未来構想 PF の実践的 WS 研修に参加させていただき、「20 年後の鉄道の将来像」をテーマとして議論させていただきました。メンバー 10 人とオブザーバーの方々と、計 7 回にわたる WS が開催され、首都圏の鉄道の将来について議論しました。参加者の立場を問わず、技術と情報の交流が自由にできる場に参加できたことは、物事をいろいろな視点から議論することの大切さを勉強させていただきました。

今月で発足 10 周年とのことですが、これからのまちづくり、交通計画、鉄道計画を構想していくために、ますます必要とされる場所ではないかと感じました。

（JR 東日本コンサルタンツ 小林繭美）

.....

コツコツと、少しずつ、あっという間の 9 年間でした

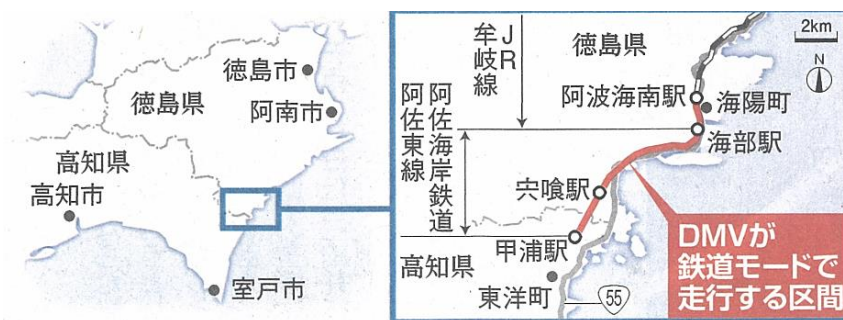
技術講演会 28 回、WS 研修 18 シリーズ延べ 190 人、WS 自主研究 2 テーマ、見学会 2 回、毎月発刊の PF 通信は 73 号、そして今年 HP を大改修。今後も皆様にとって有意義な交流の場となるよう努めて参りますので、ご支援ご協力よろしくお願いいたします。

（事務局）

たすきリレー

線路も道路も走る DMV（デュアル・モード・ビークル）

2020 年度中に四国徳島県の第 3 セクター「阿佐海岸鉄道」が、世界初となる本格的な DMV 営業運転を始める。鉄道としての走行区間は、阿波海南駅から甲浦駅にかけての 10 キロほどであるが、甲浦駅から先はバスとして走り、室戸岬などの観光地と直結することも検討している。27 年間赤字が続く同社が観光の目玉として導入する。

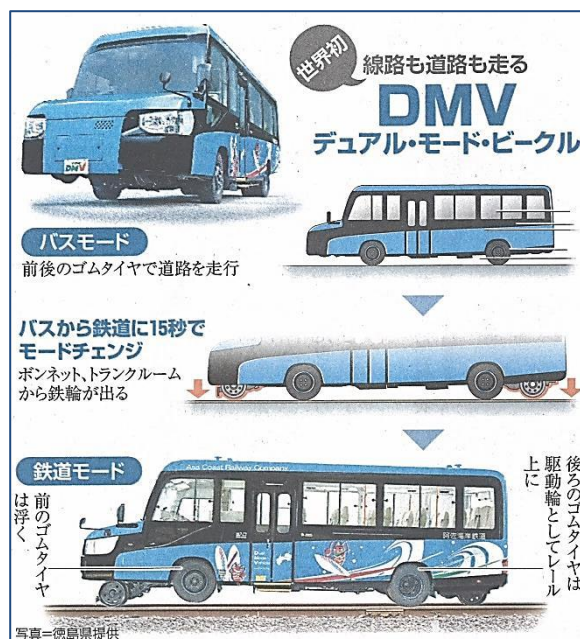


道路では通常のバスと同じようにゴムタイヤで走り、駅に到着すると、ゴムタイヤがレールの上に乗るようにガイドに沿って進む。「モードチェンジ」のボタンを押すと、ボンネットの下とトランクルームの下から鉄輪が 1 ペアずつ下りてきてレールに接地、車体は数度後ろに傾き、前のタイヤは浮かび上がり、後ろのゴムタイヤはレールに押しつけられる。これが駆動輪となって、2 ペアの鉄輪とともに計 6 輪でレール上を安定して走行する。「モードチェンジ」の所要時間はわずか 15 秒である。

DMV の開発はイギリス(1932 年)や旧西ドイツ(51 年)のほか、日本の旧国鉄(62 年)も行なっていたが、「モードチェンジに時間がかかる」「車両が重くなる」などの理由で、長期にわたる実用はされなかった。JR 北海道は、経費削減を目指して 2002 年から DMV の開発を進め、07、08 年と試験的に営業運行を行っている。しかし北海道内での列車事故が相次ぐなどしたため、JR 北海道は安全対策に集中するとして 14 年に DMV の導入を断念した。

しかし 15 年、国土交通省の技術評価委員会は DMV について

「他の鉄道車両が入らない区間を 1 両で走る」との前提で「運転保安システムに問題ない」と中間報告を出した。これを機に、徳島県



が阿佐海岸鉄道での導入を決めた。

JR 北海道が開発した試験車両をベースにした営業車両 3 両が今年までに完成、駅の改修や新たな保安システムの導入など、事業費の合計はおよそ 13 億円。1 両に乗車できる人数は運転士を含めて 23 人。ローカル線でもラッシュ時の輸送力としてはあてにできない数だが、阿佐海岸鉄道は超ローカル線で、DMV で事足りる。徳島県の担当者は「DMV は我々の身の丈に合ったシステム。ピンチがチャンスになった。どこにもない車両自体が観光資源になる」と期待を述べる。

芝浦工大の岩倉成志教授(交通計画)は「線路から道路に抜けられるのはメリット。需要があれば多くの人が乗れる車両もできるだろう」と話す。ただ、運転士が鉄道とバス両方の免許を取る必要があることが課題だと指摘している。

(朝日新聞 2019.11.23 より)

NEWS

■技術講演会を開催しました

講演テーマ：関西の都市開発と鉄道整備の歩みと将来

講演者：武市信彦 JR 西日本執行役員 東京本部副本部長

日時：2019.11.06 参加者：約 70 名

○JR 西日本では、今年の 3 月に貨物線の旅客化による新線「おおさか東線」が開業。今年の 7 月には、関空の都心へのアクセス向上となる「なにわ筋線の事業認可を得た。これら 2 つのプロジェクトを軸に、これまで関西圏の鉄道整備をどのように進め、どう将来の計画につなげてきたのか、JR 発足以降の 30 年間を概ね 10 年ごとに区切り、鉄道整備を主にハード面から概観。

○JR 西日本の基本スタンス (JR 発足以降、当社の関西圏の鉄道整備)

- ・大阪駅を起点とした鉄道ネットワークを順次整備、拡充
- ・ネットワークの中心に位置する大阪駅の大規模開発
- ・合わせて関空アクセスルートの整備

フェーズ 1. 関空アクセスルート整備と JR 東西線によるネットワークの拡大

【1987 年 (S62) 民営化～1998 年 (H10) ごろ】

フェーズ 2. おおさか東線による広域ネットワークの充実と大阪駅拠点開発

【1987 (H10) ～2008 年 (H20) ごろ】

フェーズ 3. OSC 完成とうめきた新駅等による大阪直通ネットワークの拡充

【2008 (H20) ～ 現在】

フェーズ 4. 次なる 10 年に向けて“関西都市圏ブランド確立”【 ～ 2030 年】



■第5回 CNCP サロンに参加しました

- ・日時：2019年12月10日(火) 16:15~17:45
- ・講演テーマ：「ストリートから構想する成熟社会のデザインとマネジメント」
- ・講演者：三浦 詩乃 横浜国立大学 大学院都市イノベーション研究院助教

○講演概要

- ・成熟社会 物質的消費⇒生活の質（社会には動態的な安定化が必要）
- ・ストリート 多様性と偶然性の空間 ストリートを暮らしにとりもどせ！
- ・車だけ、通りすぎるだけの道、まちの損失
- ・1日のうちピーク時交通のためだけの設計はやめよう
- ・基本原則 1. まちで活動する人にとって、公正な空間づくり
2. 「歩ける」から「歩きたくなる」へ
3. グラウンドレベルの高密度化
- ・デザインルールの大転換 もっと「プレイス」に配分しよう（英・米）
- ・ストリートデザイン+マネジメント
「移動」と「まちの活動／暮らし」を同等に扱う
- ・国際的動向 ①自動車の社会的費用をよりシビアに検証
②従来の対道路事業のB/Cの入力値の見直し
③自動運転を含め、ストリートに係るテクノロジーも日々発展

■計画・交通研究会が会報 2019-11 を発行

- Interview. 東京大学空間情報科学研究センター 柴崎亮介教授
情報銀行とビッグデータ～今後の展望
- Projects. 下水道ビジネスの実態について----迫るPPP/PFIの実行（管清工業）
- Projects. 第3回イブニングセミナーと秋の見学会
セミナー：インドで鉄道を作る 見学会：インフラと観光 栃木を題材に
- News Letters. 海外インフラ展望人材要請プログラム 本格運用をスタート
- Laboratory:2 ユニークラボ探訪 折り紙の幾何学を研究する舘知宏研究室（東京大学）
- Topics. 日本身体障害者補助犬学会 第12回学術大会
2020年東京オリパラに向けて海外からの補助犬受け入れシンポジウム
- Opinion. 自動運転時代における交通インフラのあり方 日本工営参与 作中秀行
＊詳細は事務局にお尋ね下さい。

Email: jimukyoku@keikaku-kotsu.org HP: <http://www.keikaku-kotsu.org>

■シビル NPO 連携プラットフォーム（CNCP）が会報 第68号 を発行

- ◇シリーズ 「土木ということば」 第20回 国語辞典の「土木」の用例
- ◇巻頭言 サブスク・ビジネス CNCP 常務理事 中村裕司
- ◇コラム 花畑川を活かしたまちづくりの推進 NPO 法人エコロジー 夢企画 理事長 三井元子
- ◇トピックス 土木コレクション(通称:ドボコレ)を支援して メトロ設計技術顧問 田中 努

◇土木と市民をつなぐシリーズ 「土木広報の展開 ～土木広報大賞 2019 から～」

公益財団法人土木学会専務理事 塚田幸広

◇部門活動紹介 企画サービス部門 令和元年度の企画サービス部門の課題と取り組み方策

◇会員からの投稿

高齢化社会の住みやすさを求める会（CCRC）の取り組み

特定非営利活動法人建設技術監査センター 代表理事 成岡 茂

◇サポーターからの投稿 SNS 勉強会にかかわって感じたこと プレック研究所 柴田勝史

*詳細は CNCP 事務局にお尋ねください。

Email: info@npo-cnecp.org HP: <http://npo-cnecp.org>

■最近の気になるニュース

岩井有人さん（JR 東日本東京工事事務所）の Facebook より抜粋させて頂きました。

① 米紙タイム、「今年の人」にグレタさん（12.11）

米紙タイムは、恒例の「今年の人」（パーソン・オブ・ザ・イヤー）に、気候変動対策を訴えるスウェーデンの環境活動家グレタ・トゥーンベリさん（16）を選んだ。

1927 年に同誌が「今年の人」の選出を始めて以来、最年少。



② 相鉄さあ都心へ、JR 東と相互直通開始（11.30）

相模鉄道が 30 日、JR 東日本との相互直通を始める。JR 横須賀線などを経由して新宿駅や埼玉県につながる。相鉄は首都圏の大手私鉄で唯一、都内に乗り入れていなかった。二俣川駅（横浜市）～新宿駅間の所要時間は最短 44 分で 10 分減に。

- ・山形新幹線延伸 20 年、新庄市、人口流出防止に躍起（12.15）
- ・今年の漢字はトップ「令」、3 位「和」と令和が“独占”（12.13）
- ・インド GDP が 29 年に日本超えと予測（12.12）
- ・ノーベル化学賞の吉野氏「賞金で若手研究者を支援」（12.08）
- ・横浜臨海部を空中散歩、20 年度にロープウエー開業へ（12.07）
- ・JR 東日本、長野新幹線車両基地を約 10m かさ上げ（12.07）
- ・JR 北海道の収支にサプライズ、「札幌圏」が黒字転換（12.05）
- ・日本の 15 才、「読解力」15 位に後退（12.04）
- ・宇宙旅行の法整備「20 年第前半に」（11.28）
- ・リニア、静岡着工見通せず（11.24）
- ・量子コンピューター、20 年で実用化（11.23）
- ・国土交通省、インフラ新計画災害対応に重点（11.22）
- ・新宿駅周辺の広場や通路を再整備（11.21）
- ・新国立競技場、1569 億円で工事完了（11.20）

今月の国際比較データ

① 世界の主要都市の自然災害リスク評価

出典：防災コラム（水谷武司）

(災害の多い1年でした。PF通信第24号平成27年(2015年)11月号を再掲載)

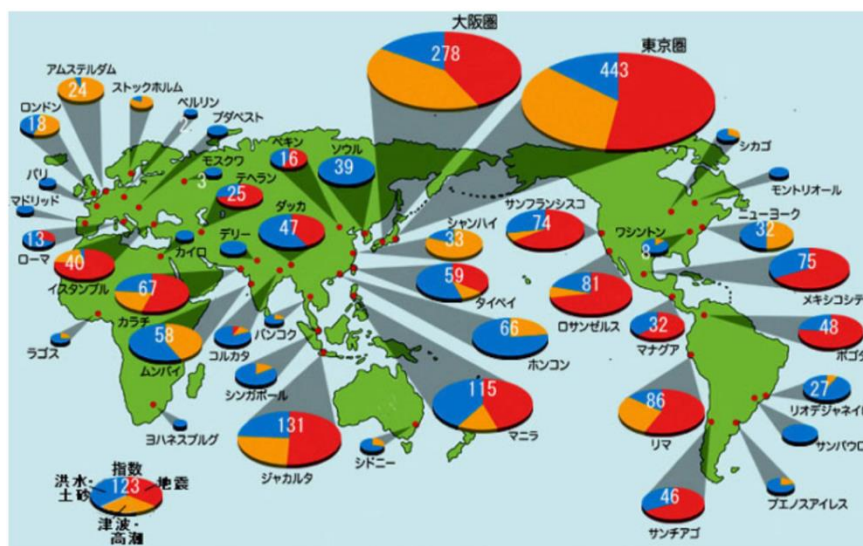


図4 世界の主要都市圏の自然災害リスク指数

世界および日本の主要都市 100 について、概略の自然災害リスク指数（Disaster Risk Index）を算定した。東京など日本の大都市の自然災害リスクがどれほど巨大であるか、立地の土地条件がいかに悪いかを、世界との比較でリアルに示すのが主な目的である。

② 海外の日本食レストラン

出典：Japan Data

農林水産省のまとめによると、海外の日本食レストランは2017年10月時点で11万7568店となった。調査は4回目で、2006年の初回調査と比べると11年で約5倍に増えたこととなる。

もともと和食の低カロリーで健康的なイメージや、日本食材の安全性が注目されていたが、訪日外国人が増えたことで、日本食への評価や関心が一段と高まったことが背景にあると考えられる。地域別ではアジアが 53% 増の約 69,300 店で、世界全体の約 6 割を占めた。

海外における日本食レストラン11万8千店に

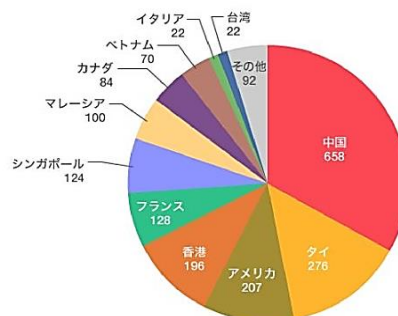
約2.4万店(2006年)→約5.5万店(2013年)→約8.9万店(2015年)→約11.8万店(2017年)



出所)外務省調べ、農林水産省推計(11万7568店) 数字は2017年時点、()内は2015年時点

nippon.com

海外における日本食材サポーター店飲食店の店舗数(国・地域別)

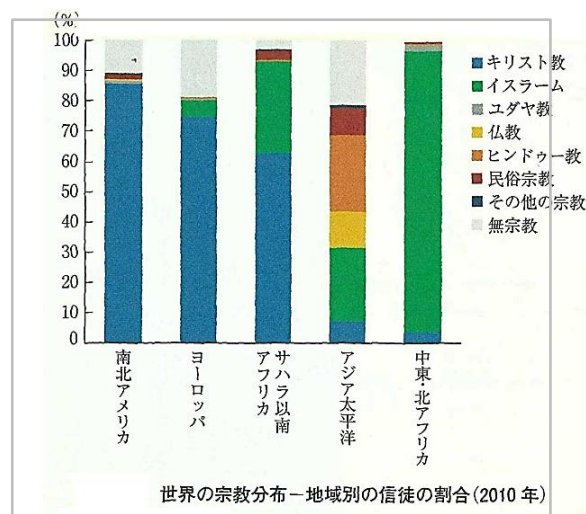


日本貿易振興機構(ジェトロ)の調査を基に作成

 nippon.com

③ 世界の宗教分布 出典：2100年の世界地図 岩波新書

2010年の世界の宗教人口の割合を地域別にまとめた。無宗教者を除くと、南北アメリカとヨーロッパではキリスト教徒が明確な多数派を占める一方で、中東・北アフリカではムスリムが圧倒的な多数派を占める。両者の中間を見ると、サハラ以南アフリカではキリスト教徒とムスリムが二極を形成しており、アジア太平洋（中東を除くアジアおよびオセアニア）ではあらゆる種類の宗教と無宗教が（よそよそしく）共存している。



PF書店

① 30の都市からよむ世界史 神野正史監修 造事務所編著 日経ビジネス人文庫

なぜ繁栄し、なぜ没落したのか？「世界の中心」を追う歴史の旅。バビロン、エルサレム、アテネ、アレクサンドリア、テオティワカン、ローマ、コンスタンティノープル、長安、バグダード、京都、サマルカンド、アンコール、チュニス、北京、マラッカ、モスクワ、・・・シンガポール、上海、ドバイ。番外でウルク、パチカン、ムンバイ、ワシントンDC、プラハ、サンパウロ、香港。



② 都市は文化（アート）でよみがえる 大林剛郎著 集英社新書

サブタイトルは、経済人が考える都市再生の方法。著者は大林組の元会長。

美術館、博物館、食堂、心地よい宿・・・住みたい街とは「文化を感じる街」、地方が元気にならないと日本全体は良くならない、これらは著者の持論である。

本書では、金沢、岡山・瀬戸内エリア、前橋、大阪、ヨーロッパ、香港など、国内外のケースを参考にしながらアートと都市の関係性を考えることが、都市再生にとっても重要であると訴えている。



③ 未来年表 人口減少危機論のウソ 高橋洋一著 扶桑社新書

労働人口が5年間で300万人減少、地方自治体の半分以上が消滅の危機、高齢者人口増加で社会保障制度が崩壊、2065年日本の総人口が8800万人に。日本の行く末を論じる上で、巷で騒がれているのが

「人口減少危機論=人口増加幸福」

著者は大蔵省（原・財務省）で第一時安倍内閣の経済政策のブレーンとして活躍、霞が関埋蔵金の公開やふるさと納税を提案。全体的にアベノミクス擁護論で終始している。そして最後に、長寿化は間違いないので、人生を楽しむチャンスが多くなったと楽観的に生きて行こう、と結んでいる。



事務局通信

◇PF通信、2019年（令和元年）バックナンバー

プラットフォーム通信 令和元年(2019年)掲載項目及び執筆者一覧表

号数	月	Top Opinion	WS	VOICE (会員の声)	たすきリレー (OBからの伝言)	国際比較データ	PF書店
62	1月	・未来構想PF理事 年頭所感		・JR東の建工部門社員2名 私の考える地方鉄道の将来	・NIKKEI BUSINESS 2017.12 2018大予測	①太陽光発電のコスト ②天然ガス生産量 ③高等教育修了者の比率	①大前研一と考える超高齢化の日本 における地方鉄道・農業の生残り戦略 ②人口知能と経済の未来 ③西郷隆盛(維新150年の真実)
63	2月	・交通新聞交通評論参照 Maas元年	・仙台地区WS研修第3回 仙台地区で新規事業を	・旅行総合サイトエクスプレス 有給休暇、国際比較2018	・平成カラオケランキング	①世界高速列車の「料金」比較 ②ベットの飼育率 ③国連予算分担率	①富山は日本のスウェーデン ②Suicaが世界を制覇する ③データはウソをつく
64	3月	・朝日新聞 波間風間 これからの地方、ITきっかけ 「関係人口」に期待	・仙台地区WS研修 参加者の感想	・熊谷徹著 ドイツ人はなぜ、年290万円 でも生活が「豊か」なのか	・鉄道遺産の旅	①外国人が最も生活の質が高いと感じる国 ②プラスチックごみによる海洋汚染 ③家計に占める金融資産	①カラー写真、60年前の東京・日本 ②データが語る日本財政の未来 ③0から1をつくる
65	4月	・山本卓朗会長 ホームドアを考える		・松尾伸之(JIC) ミャンマーで活躍する 日本の中古車商	・平成という時代	①国際観光支出ランキング ②STEMを卒業した学生の数 ③科学分野の男女格差	①観光亡国論 ②FACTFULNESS ③お金の流れで読む日本と世界の未来
66	5月	・土井博己(JRC) 情報銀行		・東浦亮典(東急電鉄)著 私鉄ビジネスモデル3.0	・日本遺産 ～北前船寄港地・船主集落～	①世界のインフラ投資額の将来予測 ②主な大学の子学生比率 ③技術貿易収支	①平成の通信簿 ②三度目の日本 ③SNS時代の文章術
67	6月	・安東誠(運輸政策研究所) 成長を続ける東京圏と鉄道サービス 向上への課題	NEWS 都市交通と都市開発100年の歩みの 光と影:都市開発インタビュー	・小林千佳(JRC) 女性土木技術者について	・AIが司法試験に合格??	①各国の鉄道輸送量および鉄道営業キロ数 ②政治家への信頼度	①鉄道王たちの近現代史 ②ビッグ・クエスション ③戦略がすべて
68	7月	・清畑靖雄(PF理事) ダムを見て災害を思う	・五方面作戦-1 五方面作戦とは	・事務局 姉妹都市交流～フランスから つながった2つの交流～	・あの年1992年(平成4年)を 振り返る	①都市圏別人口密度 ②人工衛星の数 ③日本から産物輸入した主な国・地域	①世界国勢図会 ②ハーバードの日本人論 ③明日の友
69	8月	・田中滋夫(PF理事) ふたたび「中心市街地」について	・五方面作戦-2 時代背景	・進藤隆之(JREA) 一流の田舎町	・寓話 ながいはし	①主たる国の民間航空輸送量 ②中期的有望国得票率の推移 ③世襲議員	①ふしぎな鉄道路線 ②未来の地図帳 ③14歳、明日の時間割
70	9月	・藤森伸一(PF理事) 首都機能移転について	・五方面作戦-3 方面別トピックス	・事務局 ニッポン美肌県 グランプリ2018	・富山湾から駿河湾へ 日本アルプス大縦走の旅最終回	①五つ星ホテル ②産業別生産性G7比較 ③認知症の有病率	①日本人の勝算 ②日本進化論 ③NHK国際放送が選んだ日本の名作
71	10月	・朝日新聞(2019.09.08) 歴史学者・ハリス氏の警告	・第2回見学会を実施しました	・事務局 ローマ字 何のため?	・70歳定年で遠く老後 いつまで働く?	①世界で最も魅力的な都市ランキング ②男女平等ランキング2018 ③古着の主な輸出と輸入国	①右脳思考 ②方法序説 ③モモ
72	11月	・森地茂(政策研究大学院大学) 社会資本整備と財源 (PF理事)	・五方面作戦-4 五方面作戦以降に実現した プロジェクト	・事務局 SDGs	・お風呂を楽しむ	①世界の人口分布(2100年) ②家計消費支出の構成 ③肥満者の割合	①ロウソクの科学 ②2100年の世界地図 ③読書入門
73	12月	・山本卓朗(PF会長) 日本ってやっぱり「領国する国」 ですか	・五方面作戦-5 五方面作戦の評価 ・土木学会主催の土木コレに 「ボランティアガイド」参加	・JR東日本 東工所 岩井有仁 ・JR東日本建築設計 進藤隆之 ・JR東日本コンサル 小林蘭美 未来構想PF10年目に 感想	・線路も道路も走るDMW (デュアル・モード・ビークル)	①世界の主要都市の自然災害リスク評価 ②海外の日本食レストラン ③世界の宗教分布	①30の都市からよむ世界史 ②都市は文化でよみがえる ③未来年表 人口減少危機論のウソ

◇この1年、ありがとうございました。

来る年が、皆様にとってよい年でありますよう、お祈り申し上げます。

(未来構想PF 事務局)

● 今月の写真コーナー ●



【石州瓦の町並み（島根県：津和野町）】

この地方特有の赤い”石州瓦”の屋根が目を引く。
伝統的な和風の佇まいに、同色の気動車が調和する。



【あの頃へ（千葉県：いすみ市）】

遮断機もない踏切を単行の汽車がトコトコと。一本道の先には遠い昔の思い出がありそうでした。



【里山（岐阜県：白川村）】

日本の原風景を今なお残す白川村。
蝉の声に川の音、時がゆっくりと進んでいたように感じました。

（写真提供：JR 東日本コンサルタンツ 横内啓隆さん）

プラットフォーム通信では、メンバーの皆様の投稿をお待ちしています。
連絡先：未来構想 PF 事務局 土井 携帯:090-9150-8613 メール：info@miraikoso.or.jp
〒100-6005 東京都千代田区霞が関 3-2-5 霞が関ビル 5F-28